

復活したさいの神

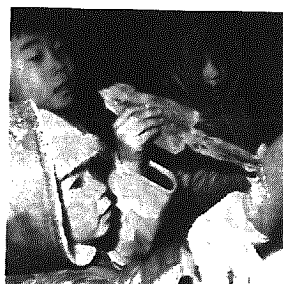
鳥原公民館

昨年、三十数年ぶりに復活したさいの神。今年も、一月十五日(鳥原公民館(木村正純公民館長)と真浄寺日曜学校の主催で行われました。

▲危ないからあまり近よらないで

当日はあいにく猛吹雪。夕方五時半ごろに真浄寺からたいまつを持った子供たちが出発。午前中に組み立てられたさいの神まで手渡しリレーで持って行きます。地区の人、子供たち、約三百人が見守る中、点火。ゴォー。燃え上がる火。熱くて思わず遠のく人もいます。少し、火勢が弱まったところでするめ焼き、健康や勉強、仕事の成就を祈りました。

あかあかと燃えるさいの神。その回りは吹雪とは思えない暖かき子供も大人も、男も女もいっしょになって、その火を見つめると、なんだか元気がでてくるようです。



▲ぼくにもするめ。ちようだい

インタビュー

木村館長にお話を伺いました。

—— 始めたきっかけは？
木村「みんな、いっしょになって一つのことをやれたかった。今、そういうことがないでしょう。特に鳥原は転入された人が多いですね。」

—— 子供たちは特に楽しそうでしたか。
木村「ええ。楽しいんですよ。目が輝いてますもの。また、やつてねと言われますし。」

—— 資料はどうしたんですか。
木村「子供たちが各家を回ってしめなわなどをもらいました。他に竹は青年会、古木は農家の方にお願いしました。全部でトラック四、五台になると思います。」

—— 吹雪でたいへんでしたか。
木村「ええ。それが残念ですが、かえって、思いに残っているかもしれないですね。それから、協力してくれた人、参加した人、全員に感謝しています。来年も必ずやりますよ。」

詩 敗北者

冬の海はむき出しにした牙で、呼吸を忘れかけた人間の衣服を翻し、髪の毛までも思い通りに踊らせていた

一瞬、見震いた
ひきちぎる風の中でかすかな潮風に挨拶し、置き去りにされた空き缶に心を寄せると、動く景色の中に静まりかえる自分がいた

何度となく訪ずれてみると、青と白のからみ合いの中で、その時々を演出する色々な顔があった。

今、
呑み込まれそうな白波に心をゆだね

じつと立っていると、海は嘲笑するように私に近づいてきた

自然の力は大きいヨ
そんなもんなんだよ君！
個々の力なんて！
海は悟っていた

私は怒る勇氣もなかった
ほんとうだと思った
こっくりうなずく、無抵抗の自分
分が
みょうに素直だと思った

バイオレット(黒鳥)

一月の俳句

左手で書かれし母の賀状来し
病める子に雪見障子を少し上げ
ガラス戸へのへのもへじ外は雪

若見正子

新しき大の首輪に春の陽
浅雪や庭の開いの薄化粧

わらつとこ下げて行く人寒む子
飾り餅松と並びて割れて座す

佐藤キン

作品・意見を募集

街かどでは、皆さんの作品(絵画、写真、イラスト、短歌、俳句など)や日ごろ感じられている意見を募集しています。

また、「作品や意見はあるがどうも」と思われている人は連絡してください。広報編集者が取材に行きます。原則として必ず取りあげますのでご協力をお願いします。

投稿、連絡先

黒埼町役場 企画調整課

黒埼町大野二八四三一

七―三二〇―